



プロフィール

東久保 英昭 (41歳)
Tokubane Hideaki

第9回のツール・ド・おおすみ実行委員長に続き、今回2度目の実行委員長に就任。今年、愛媛県と広島県を結ぶ「サイクリングしまなみ」に参加するなど、ツール・ド・おおすみを通じたサイクリングがもつぱらの趣味。

ツール・ド・おおすみ ecoサイクリング大会

本大会は、市制施行60周年を記念して平成13年に第1回大会を開催。現在は、自然豊かで広大な大隅半島を初心者から上級者まで気軽に楽しめるサイクリングイベントとして、全国各地から多くの自転車愛好家に参加するイベントへと発展。

今年のツール・ド・おおすみも大成功に終わりました。イベントの成功には、ボランティアスタッフを確保すること、そして育成することが重要です。イベントに対して一から人材を集めるのではなく、ボランティア人材バンクのような経験を積んだ人材が、自分の都合の合った時に参加してくれるシステムが必要だと思っています。

ボランティアスタッフの頑張りが見につきました。スタッフが、時・場所・場合にに応じて率先的に動いてくれること

「ツール・ド」というフランス語の本来の意味である「周る・巡る・周回する」のように、大隅半島を周遊するコースにしたいと考えています。そうすることで、自転車にとって大隅半島が素晴らしい立地条件であることを今以上に発信していけると思います。

そして、地域活性化に貢献したいと言う人材を集め、地域を今以上に元気にするということが私の目標です。

ツール・ド・おおすみに取り組みできたきっかけは、以前、青年会議所で活動をしてきた時に自転車を使得って大隅半島を周り子どもたちを育成する青少年事業を行いました。そこで自転車の魅力に引かれると同時に、「ツール・ド・おおすみの趣旨である『地域を活性化させたい』という考えに賛同して運営に関わるようになりました。」

など、能動的に活動してくれたことをありがたく感じました。また、今回のコース設定に際しても、スタッフにはテーマを設けてもらい自主的な考えを促しました。その結果、南大隅の地形を感じてもらおうと標高200mの山道を取り入れたり、花瀬の河川敷でお弁当を食べていただくといった企画が実現しました。

これも、スタッフ一同、地域力を上げて、元気な街にしたいという思いでつながっていることが理由だと思っています。



ツール・ド・おおすみ実行委員長に聞く 「大隅への想い」

START GOAL



霧島ヶ丘公園から3コースがそれぞれスタート



Aコースの先頭は、5時間以上かけてゴールに到着

Aコース/約110km
Bコース/約80km
Cコース/約30km



ファミリー向けのCコースは、神川大滝でリフレッシュ



Bコースのメインイベントは、県根占自転車競技場でのバンク体験



大隅の景勝を探访してもらおうと、もみじのトンネルを走行



Bコースの昼食は、花瀬自然公園内の石畳が会場



高低差200mの難所を含め大小様々な山路を駆け上がります



Aコースの折り返し地点である大泊小学校跡地。休憩後に、残り約50kmを走ります



広報車の呼びかけに応じ、応援に駆け付けた地元の皆さん



参加者に昼食を配膳するスタッフ



前日に組み上げられる駐輪場

一週間前に開催されたスタッフ説明会

魅力満載の大隅路

